

松本協立病院

「失神外来」 県内外から受診

開設1年余 少ない専門外来「患者の道しるべに」

松本協立病院（松本市）が昨年7月に「失神外来」を開設して1年余になり、これまで県内の50人ほどが治療を受けた。失神は不整脈や自律神経の異常などにより、脳全体の血流が低下して突然意識を失う症状で、通常数秒から数分以内に後遺症なく意識が戻る。約千人に6人の割合で発症し、国内で年間80万人ほどの患者がいるが、専門外来は国内でも少なく、県内でも珍しいという。担当の上迫隼太医師（34）は「どこを受診したらいいかわからない患者さんの道しるべになれば」と話す。

心疾患原因の場合も「見逃さないで」



失神の仕組みや原因について解説する上迫医師



失神の原因を判断するために用いる「植え込み型心電計」

確な診断が求められるとす

診察では聴診器で心音を聞いたり、心電図やエコーを用いたりして検査。問診が重要だといひ、患者本人や自撃者などに倒れた当時の状況を聞き、原因を調べる。心臓疾患が原因の失神は予兆なく起きることが多いといひ、症状が出たタイミングの心電図から原因を特定できるよう、体内に厚さ約3ミ、長さ約4ミほどの「植え込み型心電計」も用いる。

失神は血圧や心拍数の問題で生じることが多く、同病院では心臓病を専門とする循環器内科で診療に当たる。心臓疾患が原因で発症する場合は危険性が高く、不整脈、弁膜症などで脳に血液を送る機能が低下した状態を放置すると、5年後の生存率は約50％にまで低下するという。上迫医師は、意識がすぐに回復するため、受診しなかったり救急車をキャンセルしたりする例も散見されるが「見逃されると非常に危ない」と警鐘を鳴らす。

また、脳神経細胞の活動で突然意識を失う「てんかん」と思い込み、脳外科を受診する患者もいるといひ、的

上迫医師は、県内外から受診者が訪れ手応えも感じている一方、失神を危険と感じていない人も多く、危険性への周知が十分でないという。「やっついていることは地味だが、失神の原因を識別することは社会的な意義があり、しっかりと説明していきたい」と話している。失神外来の受診予約は同病院（☎0263・35・52008）へ。